

抗がん剤治療を
受けられる方へ
【ドセタキセル療法】



さいたま赤十字病院

はじめに

がんの化学療法は、抗がん剤や副作用対策の進歩により、入院せずに外来で治療することが主流になってきました。そのため、患者さんご自身の『自己管理』をすることが、治療をより効果的なものとするために大切となってきます。

そこで、このパンフレットでは、治療を安全に受けいただくことができるよう、今回の治療によって起こりうる主な副作用とその副作用による負担をできるだけ軽くするための対策として日常生活の工夫などをご紹介します。

私たちは患者さんができるだけ安心して治療が受けられるようお手伝いいたしますので、何か心配なことがありましたら、遠慮なくいつでもお気軽にご相談ください。

外来化学療法室 スタッフ一同



どんなお薬を使うの？

抗がん剤には、がん細胞に対する作用の違いから、たくさんの種類のお薬があります。

今回の治療には『ドセタキセル』というお薬を使用した単独療法を行います。

ドセタキセル

『ドセタキセル』は、「タキサン系抗がん剤」と呼ばれるグループに属していて、ヨーロッパイチイという樹木の針葉から取り出した成分で作られたお薬です。このお薬は、がん細胞が分裂する際に現れる「微小管(びしょうかん)」に働きかけ、がん細胞の分裂を阻止する作用をもっています。世界中多くの国で使用され、日本でも各種のがんの治療に用いられています。

投与スケジュール

ドセタキセル療法

標準的な投与スケジュール

この治療は、3週間に1回点滴を行っていきます。
これを1コースとし、計4コース続けます。
なお、病状や経過に合わせて治療スケジュールが
変わることがあります。

1コース目

2コース目

1週目

2週目

3週目

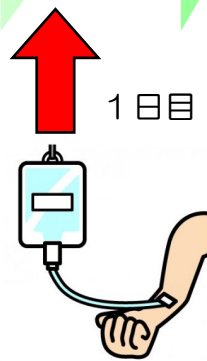
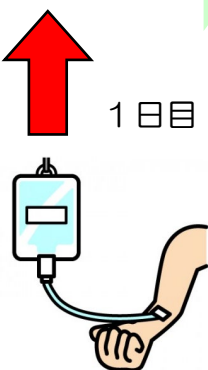
1週目

2週目

3週目

1日目

1日目



点滴は3週間毎

点滴当日のスケジュール

点滴開始

デカドロン
15分

グラニセトロン
30分

ドセタキセル
90分

生理食塩液
5分

2時間20分

お薬の作用

吐き気止め、アレルギー、
むくみの予防

吐き気止め

抗がん剤
※アルコール含有

生理食塩液
(薬液を洗い流す)



点滴終了後より服用するお薬

デカドロン錠：むくみの予防
吐き気止め



点滴当日

服用開始

夕食後：1 錠

2日目

朝食後：1 錠

夕食後：1 錠

3日目

朝食後：1 錠

服用終了



点滴を受ける際の注意

このお薬は点滴注射の際、わずかな漏れでも皮膚に障害をおこすことがあります。点滴注射中は下記の点にご注意ください。

- お薬が血管の外に漏れないよう、点滴注射中は安静にしてください。
- 点滴注射中に注射部位が腫れたり、痛みや灼熱感(焼けるような熱さ)を感じたりする時は、近くにいる医師や看護師、薬剤師にすぐにお知らせください。
- 点滴注射中にかゆみや発疹、火照り感、胸苦しさ、吐き気、腹痛など、少しでも気分が悪くなったら、我慢せずに、近くにいる医師や看護師、薬剤師にすぐにお知らせください。



予想される主な副作用と対策

副作用には個人差があり、種類や程度もさまざまです。以下に予想される副作用とその対策についてご紹介しますので参考にしてください。

吐き気・嘔吐・食欲不振



吐き気・嘔吐・食欲不振などの消化器症状は、薬剤が消化管粘膜や嘔吐中枢を刺激することで起こります。

多くの患者さんにみられる副作用ですが、その予防として吐き気止めの薬を十分使用していきますので安心してください。ただし、症状や程度には個人差がありますので、辛い場合には早めに主治医へご相談ください。

下記のような症状が出現したら、**我慢せずに医師または看護師に連絡をしましょう。**

- 嘔吐が1日に何回も起こる。
- 嘔吐のため水分や食事がとれない。
- 吐き気が長期にわたって続いている。
- 吐き気のため、吐き気止めを飲むことができない。

吐き気・嘔吐を和らげる工夫(日常編)



- 我慢せずに吐き気止めを積極的に服用しましょう。
- 食後はすぐに横にならない。
- 映画や音楽などでリラックスを試みましょう。
- 吐き気が生じたら、ゆっくり呼吸しましょう。
- 体をしめつけるような衣類は避けましょう。

吐き気・嘔吐を和らげる工夫(食事編)



- 吐き気や嘔吐症状がある場合には無理には食べない。
- 食べられそうなときに、食べられそうな物を少量ずつ食べる。
喉ごしの良い冷たい物・・・そうめん、豆腐など。
消化の良い物・・・お粥、雑炊、スープ、煮込みうどん
水分の多い物・・・果物（みかん、りんご、スイカ、メロン等）、ゼリー、プリン、アイスクリーム等
- においの強いものを避ける（温かいものは冷やす）。
- 栄養補助食品などでカロリーや栄養素を補う。
- スポーツドリンクなどで水分をとる。

骨髄抑制

【採血検査でわかる副作用】



血液の中には白血球、赤血球、血小板という3つの成分があります。これらは骨髄という、いわば血液生産工場で作られています。骨髄の機能が抗がん剤の影響を受けて低下することを骨髄抑制といいます。

白血球の減少



骨髄抑制により、細菌から体を守る役割を担う白血球(特に好中球という成分)が一時的に著しく減少し、体の抵抗力が低下して風邪や肺炎などの感染症が起こりやすい状況になります。点滴終了後5~10日後に最も少なくなり、その後7~10日程度でもとの値に戻ります。点滴後1~2週間ぐらいは感染しやすい時期ですのでとくに注意が必要です。

下記のような症状が出現したら、**我慢せずに医師または看護師に連絡をしましょう。**

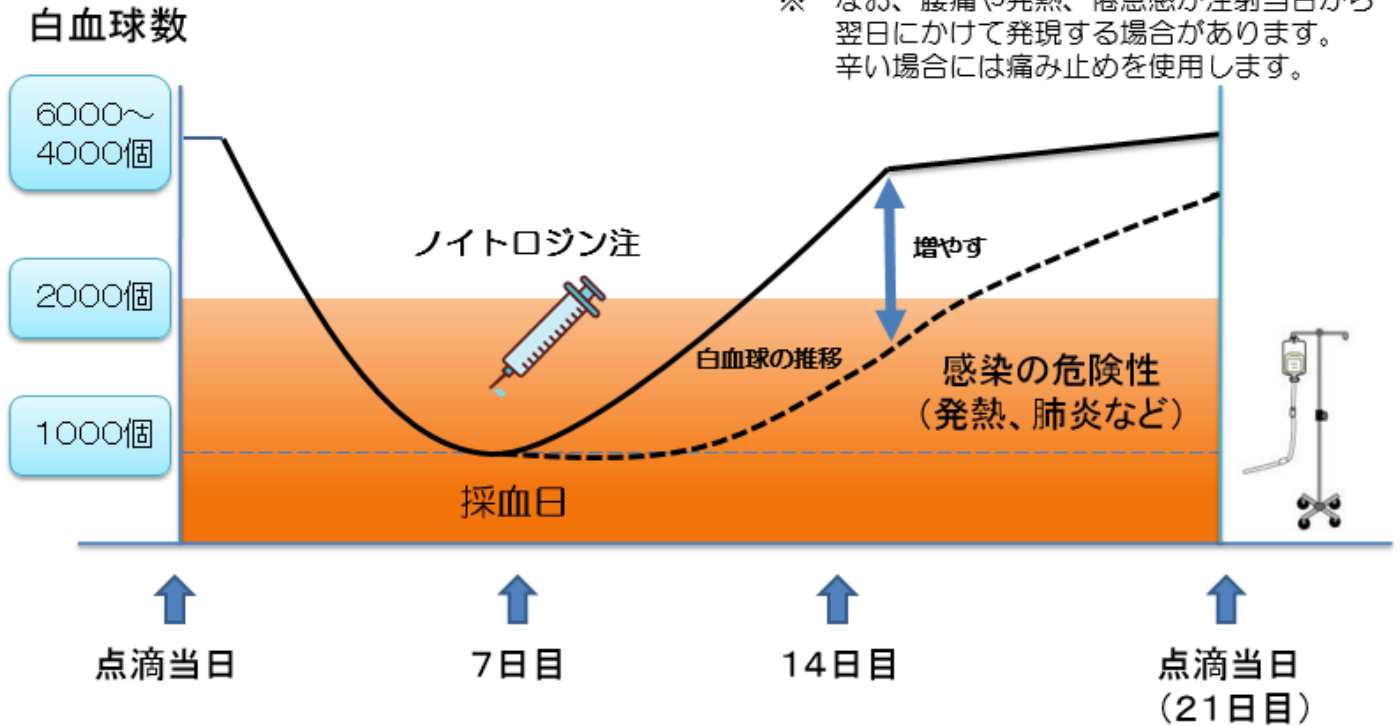
感染症の徴候

- 38℃以上の熱が持続する。
- 寒気がする。
- せきが出る。
- のどの痛みがある。
- 排尿時の痛み。
- 頻尿。
- 軟便、下痢が続く。

骨髄抑制の対応について

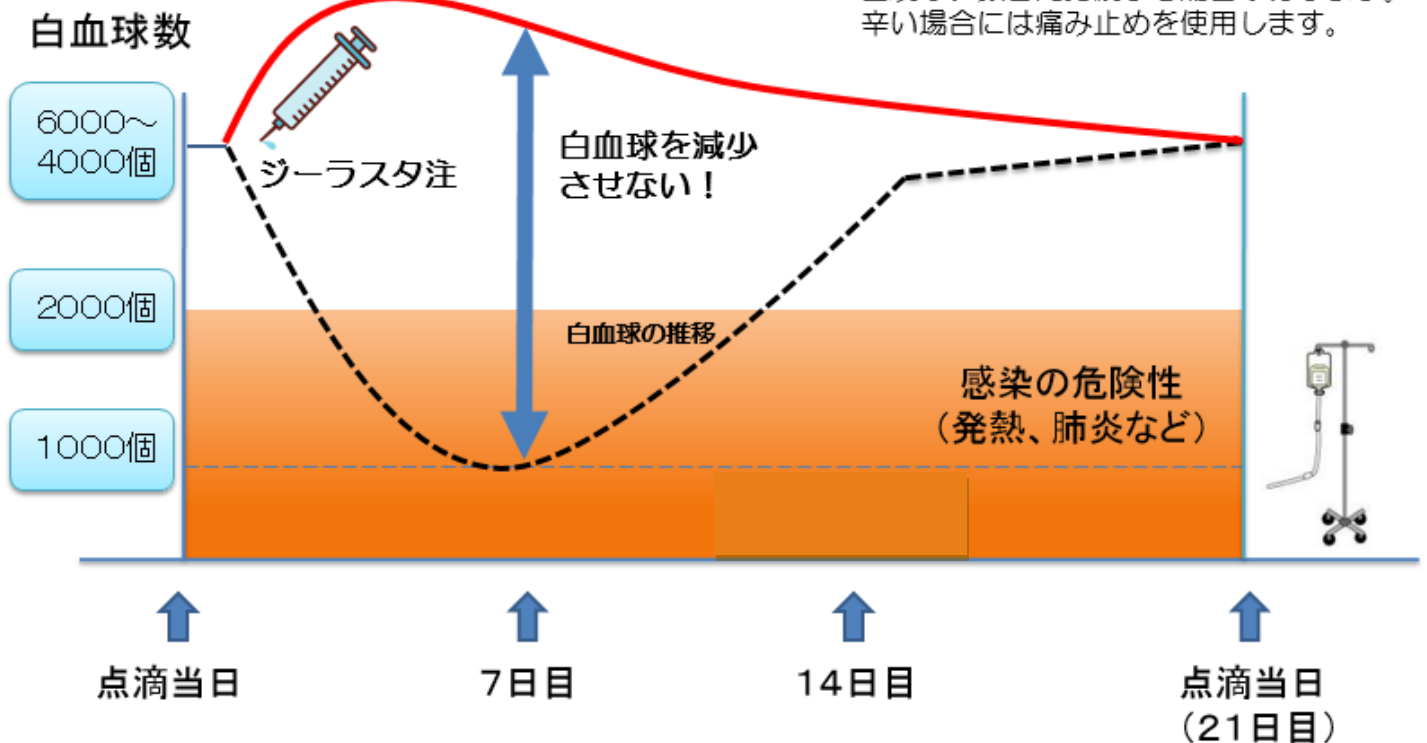
① 1週間後の採血結果により、ノイトロジン注射を投与する場合

※ なお、腰痛や発熱、倦怠感が注射当日から翌日にかけて発現する場合があります。辛い場合には痛み止めを使用します。



② 点滴2~4日後に、ジーラスタ注射を予防投与する場合

※ なお、腰痛や発熱、倦怠感が注射後から出現し、数日間持続する場合があります。辛い場合には痛み止めを使用します。



白血球がかなり減少している場合、白血球を増加させる薬剤を使用する場合があります。また、感染症の可能性がある場合、抗生物質などを使用することもあります。

感染症を予防するための対策



- 外出から戻ったときや、トイレ、食事の前後は手をよく洗い、こまめにうがいをしましょう。
- 外出時はマスクを着用し、できるだけ人混みは避けてください。また、風邪などの感染症にかかっている人には近づかないようにしましょう。
- 歯を磨くときは、口の中を傷つけないように、柔らかく清潔な歯ブラシを使ってやさしく磨きましょう。
- 短時間の手早いシャワーを浴びるなどして、身体を清潔に保つようにしてください。
- 排便後の肛門周囲を清潔にして傷などをつけないようにいねいに扱ってください。
- 皮膚に小さな傷がついた場合は放置せずに、消毒剤をつけるなどして、十分手当てをしておきましょう。
- 刃物を使う時、アイロンがけや、料理の時の火傷などに気をつけましょう。
- 主治医に相談せずに予防接種を受けないようにしましょう。

赤血球の減少



骨髄抑制により、全身に栄養(酸素)を運ぶ役割を担う赤血球を一時的に減少させ、全身の酸素量が低下してめまいや息切れなどの貧血症状が起こりやすい状況になります。本療法を数コース続けると、起きることがあります。治療が終了すればもとの値に戻ります。点滴注射を続けて数週～数ヶ月くらいに注意が必要です。

下記のような症状が出現したら、**医師または看護師、薬剤師にご相談ください。**

貧血の徴候

- 息切れ。
- 疲れやすい。
- さむけ。
- めまい。
- 頭が重い。

極度の貧血の場合、輸血をすることがあります。

貧血になったら



- ・ 十分な休養と睡眠をとり、無理をしないようにしましょう。
- ・ 動き始めるときはゆっくりと(起き上がり、立ち上がり)
- ・ 急激な運動(走る、階段を駆け上がる等)は避けましょう。

血小板の減少



骨髄抑制により、血液を固まらせる役割を担う血小板を一時的に減少させ、鼻血、内出血、歯ぐきからの出血などの症状が起こりやすい状況になります。本療法の点滴終了後1週間ぐらいすると起きることがあります。治療が終了すればもとの値に戻ります。点滴後1週間目ぐらいに注意が必要です。

下記のような症状が出現したら、**医師または看護師、薬剤師にご相談ください。**

血小板減少の徴候

●鼻血が出やすい。

●青あざがでしやすい。

●歯ぐきから出血しやすい。

●血が止まりにくい。

●血尿。

出血傾向がみられる場合、血小板輸血をすることがあります。

出血しやすくなったら



- ・歯ブラシは、柔らかいものを使いましょう。
- ・鼻をかむ時は、強くかまないようにしましょう。
- ・刃物などを使う時は、けがに注意しましょう。

浮腫(むくみ)



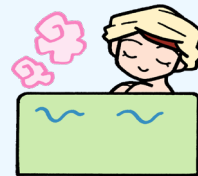
このお薬の特徴的な副作用です。治療の回数が増えると、下半身にむくみがあらわれることがあります。対策として、デカドロン錠を服用し予防していきます。むくみは体の中に余分な水分がたまっている状態です。

気になる症状が出現したら、**医師または看護師、薬剤師**にご相談ください。

むくみのチェック



- できるだけ毎日、体重を測りましょう。毎日同じ条件(起床時、就寝前など)で定期的に測定しましょう。体重が増加傾向にある場合はむくみが出ている可能性があります。
- 食事での塩分のとりすぎや水分のとりすぎはむくみの原因になります。
- ゆっくり入浴し、からだを温めて血液の循環をよくしましょう。また、むくみやすい箇所をマッサージしたりするのも良いでしょう。



脱毛



脱毛は、治療を開始して2～3週間過ぎた頃より、髪の毛が抜け始め、1～2週間かけて抜け落ちます。抜け方には個人差があり、少しずつ薄くなる人もいれば、大量に頭髮が抜ける人もいます。また、頭髮だけでなく、眉毛、まつ毛など全身の体毛にもおこります。脱毛は治療による一時的な副作用です。治療が終了し、しばらくすると生え始め、約6ヶ月程度で回復しますが、さらに時間がかかることもあります。

脱毛の対策



- 急に髪が抜けてくることが多いため、精神的に落ち込みやすくなります。事前にウィッグ、ナイトキャップや帽子、スカーフ、バンダナ等を用意しておくことで、心の準備をしておくとい良いでしょう。
- 髪をあらかじめ短くしておくこと、脱毛が起きた際に処理しやすいです。また洗髪は爪を立てず、やさしく行いましょう。脱毛が起きる際にピリピリ感を感じることがあります。いつも使っているシャンプーでしみるようならば、刺激の少ないシャンプーを使うと効果的です。

手足症候群



手足症候群は、抗がん剤によって手や足の皮膚の細胞が影響を受けて起こる紅斑性皮膚炎です。特に手のひらや足の裏にしびれやヒリヒリ感、チクチク感、赤み、色素沈着が起こることがあります。

悪化すると赤く腫れ、水ぶくれができ皮膚がむけてしまうことがあります。知覚過敏や歩行困難を引き起こすため予防が重要になります。

気になる症状が現れたら主治医へご相談ください。

発症しやすい部位

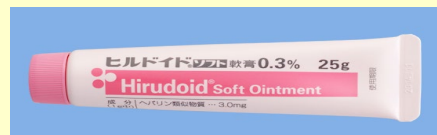


手の指先、関節付近等



足の指先、付け根、かかと付近

保湿剤を手と足に十分塗っていただく事が大切で、治療中は保湿剤(ヒルドイドソフト)を使用します。



保湿等を十分行っても、症状が悪化したり、日常生活に支障をきたすようなら、我慢せず直ぐに受診して、医師、薬剤師、看護師にご相談ください。

手足症候群の予防対策



- 皮膚の保湿を心がけましょう。(特に冬は要注意です)
- 夏は発汗にも注意しましょう。
- 足に負担のかかるきつい靴、靴下は避けましょう。
- 足に圧力のかかる長時間の歩行・正座、また、ジョギング・エアロビクスなどの跳躍をする激しい運動は避けましょう。
- 手や足は常に外的な刺激を受け、症状が悪化しやすい部分なので、水仕事や畑仕事の際には、ゴム手袋(軍手)、厚手の靴下を使用しましょう。
- 手に圧力や摩擦のかかる雑巾絞り、かたい瓶の蓋をあける、長時間の包丁の使用は控えましょう。
- お風呂やシャワー、炊事でお湯を使う時は、ぬるめに設定し、長時間の使用は避けて、やさしく水分を拭き取り、保湿クリームを塗りましょう。
- 直射日光は避け、外出時は日焼け止めクリームや日傘、帽子等を使用し、皮膚の保護に努めましょう。

口内炎



口内炎は治療を開始して5～14日目頃より、口の中がヒリヒリする症状が出てくることがあります。

口内炎ができると舌や口の粘膜があれたり潰瘍ができて、食べ物がしみたり、口の中が腫れたりします。

口内炎は確実な治療法がないので、予防がもっとも大切です。口内炎のほとんどは治療終了後に回復します。

口内炎がひどくなると、食事がとれず体力が低下する場合があります。口内炎ができたなら、医師、看護師、薬剤師にご相談ください。

口内炎の予防と対策



- 食後は歯ぐきを傷つけないように柔らかい歯ブラシで、きちんと歯を磨きましょう。
- 外出から帰宅した時、毎食後、ねる前に水又は医師から処方されたうがい薬でまめにうがいをしましょう。
- 熱い食事は口や喉に刺激となるので、冷たい物や室温程度に冷めたものを食べるようにしましょう。
- 酸味の強いもの、スパイスをきかせたもの、塩辛いものは、なるべく食べないようにしましょう。

筋肉痛、関節痛



お薬を投与して2～3日後にまれに肩や背中、腰や腕などの筋肉や関節に痛みが現れることがあります。症状はほとんどが一時的なもので、数日後には回復します。鎮痛剤が良く効きますので主治医へご相談ください。

手足のしびれ



お薬を投与して3～5日後に、手や足の指がしびれたり、感覚が鈍くなったりすることがあります。軽い症状であれば、ほとんどが自然に治りますが、継続する場合もありますので、気になる時は我慢せず医師、看護師、薬剤師に相談してください。

味覚障害



お薬により味覚が変化することがあります。「口の中が常に苦い」「鉄のような味がする」「甘いものが甘くない」「何を食べてもおいしくない」「砂をかむような感じ」などと感じることがあります。ほとんどの場合、治療が終了すればもとに戻ります。

下痢



症状は通常の下痢と同様です。しかし抗がん剤使用后1週間目に生じた下痢は、一時的ではなく長期化しやすいため、注意が必要です。

1日に何回も下痢になったり、水分も摂れない場合は、我慢せずに、**医師または看護師に連絡をしましょう。**

下痢が続く時の対処



- 乳製品、香辛料を使ったもの、脂っこいもの、食物繊維の多いもの、匂いの強いものは避けましょう。
- 脱水症状になるのを防ぐため、スポーツドリンクなどで十分に水分をとりましょう。

便秘



便秘は、お薬による影響が大きいです。が、食事の影響や運動不足が原因の場合もあります。便秘時には下剤で対応してきます。

便秘が続く時の対処



- 水分を十分とり、食物繊維の多いものをとりましょう。
- 軽い運動をする様に心がけましょう。

皮膚、爪の変化



治療を開始して数週間後から皮膚にしみができたり、爪が変色や変形することがあります。これらの症状は治療が終了すれば徐々に回復してきます。

爪の変化時の対応



- 爪は短く切りそろえ、清潔にしておきましょう。
- マニキュアでコーティングしてもよいでしょう。

倦怠感



治療を開始して数日後からからだが重い、疲れやすいといった倦怠感を感じるがありますが、治療による原因が多いので必要以上に心配することはありません。

日常生活での対応

- だるい時は無理せず体を休めましょう。
- 急な動きはせず、ゆっくりと体を動かしましょう。
- 趣味や音楽などで気をまぎらわせるもの良いでしょう。
- 主婦の方は、家事はできる範囲内で行い、家族の協力もお願いしましょう。

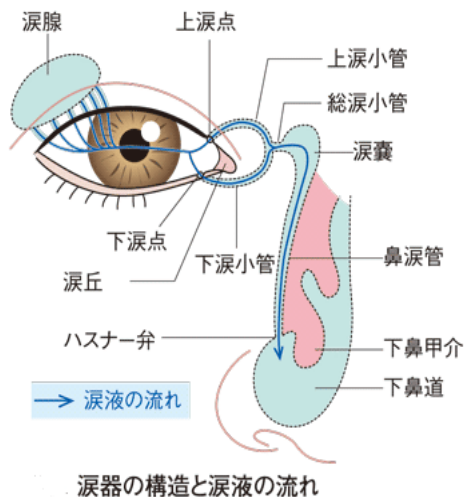
【まれだが、注意が必要な症状】

**注
意**

涙目



鼻涙管という涙を鼻の中に廃液する管が狭くなり、涙があふれる状態になることがあります。



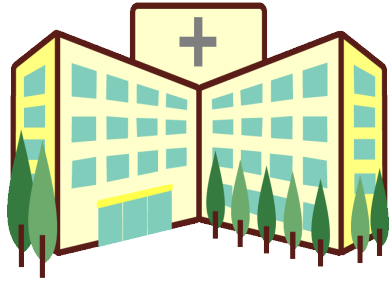
間質性肺炎



抗がん剤が原因で起こる肺炎です。症状としては、「階段を登ったり、少し無理をしたりすると息切れがする・息苦しくなる」、「空咳が出る」、「発熱する」などがみられます。これらの症状が急に出現したり、持続したりした場合には、早々に病院に連絡してください。

以上が代表的な副作用ですが、これ以外にも予期せぬ副作用があらわれることがあります。

気になる症状やいつもと違う症状がある場合は、どんな些細なことでも我慢せずに医師または看護師、薬剤師にご相談ください。



連絡先(平日 8:30~17:00)

〒330-8553

埼玉県さいたま市中央区新都心 1 番地 5

TEL : 048-852-1111 (代表)

外来化学療法室